



障がいのある人も、そうでない人も 分け隔てなく生活できる社会への一歩

急坂を上り切った唐沢の高台に、白を基調にした素敵なお家“グループホームLa.Ohana”が開所しました。ここは障がいを持つ女性専用の施設です。



Ohana

ハワイ語で“家族”さらには“確かな絆で結ばれた人々”という意味を持った言葉です。

障がい者グループホームとは

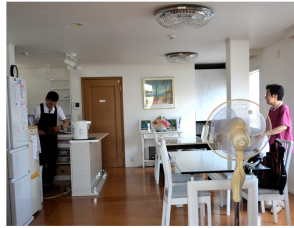
障がいのある方が必要な支援やサポートを受けながら、共同生活をおこなうことができる住まいのことです。



←ホームを見守る招き猫

大半のグループホームは男女対象です。入所者は男性が多く、女性専用はごく少数です。女性目線から見ると、グループホームのように入居人数が少ないほど「男女一緒はちょっと」と感じてしまいます。

↓室内は明るく解放的



ここは定員6名、若い女性が多くここから職場に通っています。リビングではヘルパーに悩み相談をしたり、恋バナに盛り上がりたりするそうです。



グループホームLa.Ohanaの代表は、2021年衆議院選挙を野党統一候補として共に闘った岡本英子さんです。私とは1995年横浜市議員初当選の同期です。横浜市議時代に障がいのあるお子さんを持つ親御さんたちから「親が面倒をみられなくなった後の子どもが心配」という声をたくさん聞いたことが、岡本さんの障がい者支援への取り組みの原点です。ここは彼女にとって30年来の夢の施設です。

日本共産党横浜市議団は、グループホームを含めた多様な形態で、精神障がい者の地域での住まいを確保することを求めています。

あらさきのばやき
お盆休みは、遊びに来ていた2歳の孫の相手をしていました。
好奇心旺盛な孫娘は、私のiPadを持ち出し、あんなパンマンの動画を見せて大喜び。しかもお気に入りの動画を、自分の指を使って何回も再生するのにはびっくり。
言葉の吸収も早く、「いらない」「食べる」など、はつきりと自分の意志を主張するので、わが子の時と比べて、その成長ぶりは早いと感じます。私の記憶はどんどん劣化しているのに、おそるべし2歳児!



榎町2丁目

照隆寺のこども食堂「ありがとう食堂」



親子の地域交流を目的としたこども食堂“ありがとう食堂”は、照隆寺と蒔田地区社会福祉協議会が主催して2022年11月に始まりました。

“ありがとう”には、子どもに食材の生産者や食事を用意してくれる人へ感謝の気持ちを持ってほしいという願いが込められています。コンセプトは「出来たての食事をみんなで味わう」毎月第2金曜日17～19時に開催しています。



8月は夏休み特別企画



第1部は、先月紹介した“横浜こどもホスピス”の田川尚登代表理事の講演。東京からお話を聞きに来た方もいました。

第2部は、焼きそば・かき氷・ヨーヨー釣り・射的・お楽しみくじ等々盛り沢山！130人を越える参加者で大盛況でした。



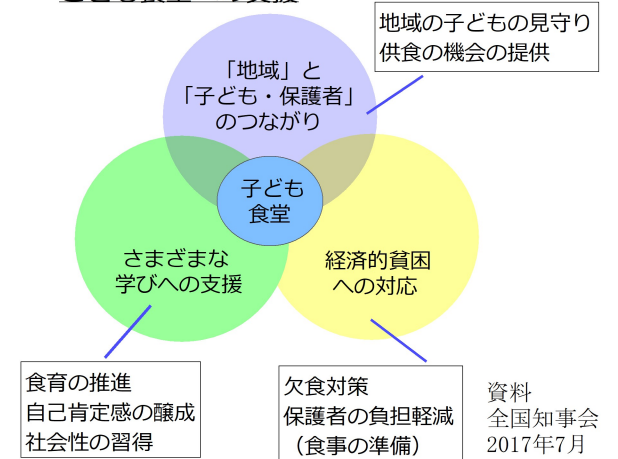
スタッフさんは

ケアプラザや社協、寺関係の人たちに、食堂担い手さんや地元の中学生、横浜商業高校国際学科の生徒さん等、多くのボランティアに支えられています。



高校生は受付・配膳の他にも大活躍。場の盛り上げにも力を発揮します。受験を控えた3年生は、2年生に引継ぎまでしてくれました。

子どもの居場所確保・充実
こども食堂への支援



資料
全国知事会
2017年7月

日本共産党横浜市議団は、こども食堂を応援するために、市の“こどもの居場所づくり活動支援補助金”（現在は1回あたり1万円を上限とし、かつ1事業所24万円が上限）の増額を求めています。